

# 令和4年度事業報告

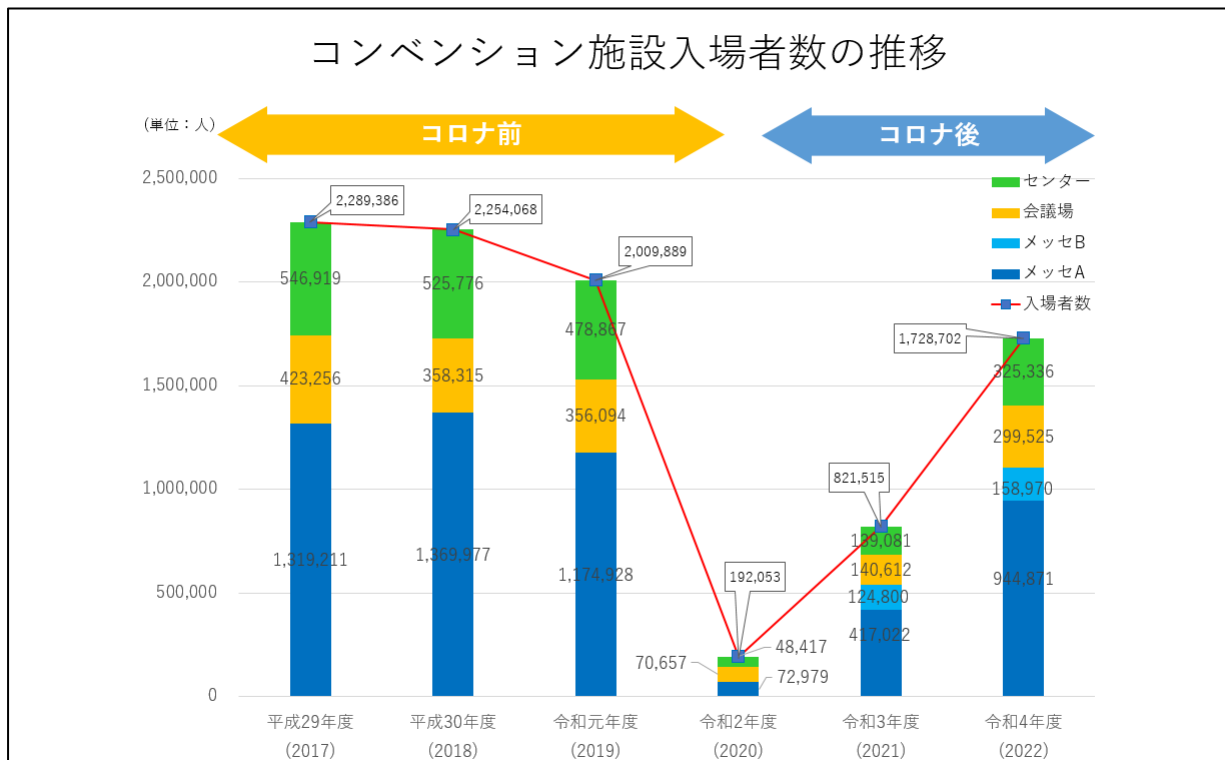
## 1 概要

一般財団法人福岡コンベンションセンター（以下「財団」という。）は、福岡国際会議場、マリンメッセ福岡A館及びB館、福岡国際センターを管理・運営する法人として、福岡市及び公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー（以下「FCVB」という。）と連携して、長年にわたり、様々な国際会議や大規模な学術会議、展示会、世界的なスポーツ大会等のMICEの誘致・開催支援を行っている。

現在、第4期指定管理者（令和元年度～令和5年度）として、①福岡市のMICE戦略への貢献、②マーケティング戦略に基づくMICE競争力の向上、③安全安心でユニバーサルな施設の提供、④事業の持続性の確保と財政負担の軽減・平準化、⑤法令遵守と公平・公正性を確保した管理運営の5つの方針に基づき、利用率及び顧客満足度のさらなる向上に向けて、財団が有するMICE誘致・運営のノウハウ等を活かし、適正かつ効果的、効率的な管理運営に取り組むとともに、福岡市が重点分野として位置付けるMICEの誘致により、福岡市の産業や地域観光の振興、市民文化の発展に貢献している。

令和4年度は、世界水泳選手権大会（以下「世界水泳」という。）の再延期の影響を受け、施設利用予定は大きく変更となったが、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）によるイベント開催制限等が緩和されたことにより、開催を見送っていた多くの催事が再開されるとともに、複数施設を利用する催事への拡大化の提案や過去利用者への営業、新規利用者誘致による新たな催事の開催など、コロナ禍以前の活気もどりがつつあり、コンベンション事業収入は約18億円、入場者数は172万人まで回復した。

※マリンメッセ福岡B館は令和3年4月より供用開始されている。



## 2 MICEの戦略的な誘致・営業

### (1) 国際会議・学会会議の誘致

コロナ感染拡大の影響はあったものの、九州大学をはじめとした県内各大学、首都圏・関西圏の学会事務局を中心に訪問営業を再開し、積極的な営業活動による情報収集に努めた。その結果、令和4年度は「第40回日本白内障屈折矯正手術学会」（令和6年6月）、「第50回日本診療情報管理学会学術大会」（令和6年8月）等、令和4年度以降に開催される国際会議・学会会議計42件の誘致に成功した。

また、福岡市及びFCVBと共同運営をするMeeting Place Fukuoka（以下「MPF」という。）においてターゲットMICEの抽出やコンベンションゾーンへの誘致に向けた提案書の作成、首都圏・関西圏への訪問営業等を行ったほか、国際MICEエキスポ（IME）へ出展し、約10件の国際会議・学会会議主催者と商談を行い、現在も誘致営業活動を進めている。

今後も引き続き積極的な情報収集と関係者との人脈構築を行い、誘致営業活動を行っていく。

### (2) 新規・重点分野の催事の誘致・営業

市のMICE戦略重点分野（新産業／クリエイティブ／食／医療・医学／スポーツ／アジア）、学術文化振興に資する催事、地場産業振興への寄与が期待される催事をMPFにおいて密に情報交換を行いながらターゲットとして抽出し、令和4年度から導入された福岡市の見本市等開催助成金の活用を提案しながら、前項と同様に首都圏を中心に誘致・営業活動を行った。

重点分野のうち新産業の分野においては、マリンメッセ福岡B館にて、2件のDX関連展示会（令和5年3月・10月）の誘致に成功した。また、マリンメッセ福岡A館・B館併用利用の催事として、国内最大手の展示会・見本市主催者であるRXJAPAN株式会社の「ものづくりワールド（令和5年11月）」の誘致に成功し、九州市場の新しい可能性を確立させた。

アジアの分野においては、令和3年度に中止となった「ヤクルト世界大会」（マリンメッセ福岡A館・B館併用利用、令和5年11月）の再誘致に成功した。

医療・医学の分野においては、福岡国際会議場、マリンメッセ福岡A館・B館での併催となる「第30回日本緩和医療学会学術大会」を含む34件の誘致に成功した。

### (3) リピーターの流出防止・定着化

令和4年度は、多くのリピーターがコロナ禍で中止・延期していた催事を再開するようになったものの、引き続き開催に慎重なリピーターについては、開催決定の判断をするための猶予期間を設けることにより、機会損失の防止に努めるとともに、今後も引き続き利用していただけるよう、令和5年度以降の日程提示を早めに行った。

また、施設の空き日程について、過去に複数回開催実績のある催事主催者に対して営業活動を行うなど再度の定着化につながるよう努めた。

#### **(4) 国際会議場の中小会議室の利用促進**

令和3年度に引き続き、助成金制度や施設の感染症対策等の利用者にとって有益な情報をホームページやチラシ、SNSにより随時発信するとともに、中小会議室の利用者が会場を決定する際に必要な、会議室の空き状況や利用料金等について、ホームページで最新の情報を提供した。

また、閑散期に施設利用料金の割引キャンペーンを実施し、特設ページを開設したほかSNSを活用し、利用者へのキャンペーン情報を積極的に提供することで、閑散期の利用率向上に努めた。

同時に、メインホール・多目的ホール・国際会議室の利用者に対して中小会議室を併用した利用方法の提案を行い、利用率向上を図った。

コロナ感染拡大が収まってきたこともあり、中小会議室の利用率は、前年度の37.6%から20.6ポイント上昇し、58.2%となり、コロナ禍以前の平成30年度の利用率64.9%と比較しても、回復傾向にある。

#### **(5) 複数施設相互利用への取組**

マリンメッセ福岡B館の開館により、催事規模に応じた施設の提供が可能となったことから、利用可能日程の効率的なスペースマネジメントを行い、機会損失の解消に努めるとともに、マリンメッセ福岡A館・B館の併用開催による既存催事の拡大化の提案や大型展示会の誘致を行った。

令和4年度については8件の併用開催があった。今後、併用の上で発生した問題点や利用者からの要望についてスピーディに対応を図ることにより、更なる利用促進につなげる。

### 3 運営サービスの向上

#### (1) 催事運営のサポート

お客様の立場に立ち、各催事の目的達成に向けて、催事内容や利用施設の特徴を踏まえながら、サービスの提供を行い、顧客満足度の向上に努めた。

世界水泳の準備に伴い、駐車場の一部が利用できなくなったため、代替駐車場の確保や、コンサート終了後の臨時バス乗降場を福岡国際センター前に変更するなど施設利用者・来場者へのサービス維持に努めた。

マリンメッセ福岡A館・B館の併用開催時に要望が多かった、双方展示室内への同時音声配信システムの導入や、国際センター応接室をニーズの高い会議室に仕様変更するなど催事運営のサポートを行った。

また、来場者向けにはマリンメッセ福岡A館の案内サインをユニバーサルデザインに配慮した内容へ更新、国際会議場レストランの満足度向上を目的とした定期的なメニューの見直しを行うなど、来場者の目線に立ちサービスの向上を図った。

#### (2) With コロナの催事運営について

国及び県の指針に基づいた施設利用条件のガイドラインの随時更新や、コンサートプロモーターズ協会、日本展示会協会などの業界団体からの情報収集を行い、With コロナの催事運営に努め、施設利用者が安全・安心に催事を開催できる環境整備に注力した。

また、オンライン・ハイブリッドでの開催など通信を伴う催事に対応できるように、機器及び環境の整備を行った事で、コロナ禍における催事開催に向け様々な状況に応じた提案を行うなどの催事運営のサポートを行うことができた。

### 4 施設の維持管理

経年に伴う老朽化に適切に対応して、施設の維持管理と安全性の確保を図るとともに、利用者に快適で利便性の高い施設を提供できるよう、各施設の保守管理、改修等を行った。

保守管理は、施設・機器等について専門の委託業者等による日常・定期点検の的確な履行、実施内容の確認を徹底し、予防保全に努めた。

改修等については、長期保全計画に基づき設備機器更新や施設環境の改善を計画的に実施した。

また、令和5～6年度に実施する福岡国際会議場の大規模改修について、令和4年度に実施設計を行った。

各施設の主な修繕内容は次のとおり。

#### (福岡国際会議場)

財団が実施した修繕	
○監視カメラ設備更新工事	○非常用ガスタービン発電設備発電装置コントローラ取替修理
○LAN 設備機器更新工事	○1階誘導灯 LED 改修

### (マリンメッセ福岡 A館)

改修等については福岡市で、緊急修繕等については必要に応じて財団が実施した。

財団が実施した修繕	(参考) 福岡市で実施した改修
○建物設備緊急修繕	○アリーナ昇降席機器更新工事 ○迫舞台西側機械基礎爆裂修繕 ○アリーナ AHU 風量増強対策工事 ○エントランスホール漏水対策

### (マリンメッセ福岡 B館)

修繕等については P F I 事業者が実施した。

### (福岡国際センター)

財団が実施した修繕	
○非常用発電設備エンジン分解整備 ○エントランス LED 化工事	○西側屋外階段腰壁補修・塗替 ○鋼製建具金物修繕

## 5 安全対策・危機管理対策

日頃から、施設設備の点検や催事主催者等へ施設利用方法の説明を徹底するなど、安全対策に努めた。

近年、危機事案が多様化していることを踏まえ、必要に応じて危機管理対応マニュアルなどを適宜更新するとともに、4施設の防災センターとの月1回安全対策会議を開催するなど安全管理向上に努めた。

また、自然災害や催事上の事故をはじめ、防火・防災その他の危機事案の発生時には、防災センターや主催者・関係者と十分な連携を図り、迅速、的確かつ組織的な対応が図れるよう訓練を実施した。

さらに、財団職員、防災センター職員と消防機関合同による防災研修・訓練を定期的実施し、職員の危機意識の向上に努めた。

そのほか、防災管理者等の資格取得や救急救命講習などを積極的に受講するなど、職員等の防災知識・技術の向上にも努めている。

## 6 新たな取組み

### (1) 広告事業の検討

新たな財源の確保を目的として、施設の共用スペース（ロビー、壁面等）に有料広告を掲載することについて、事業者による市場性や収益見込みの分析が完了した。令和5年度世界水泳終了後から事業を実施する。

### (2) 自主企画事業の実施

マリンメッセ福岡A館で実施される「はたちのつどい（成人の日記念行事）」に合わせてマリンメッセ福岡B館を来場者の待機場所として開放し、休憩スペース、フォトコーナー、ラジオの公開収録、軽食販売を実施し、コロナ対策としての密集の緩和を図るとともに、施設周辺の滞留解消に繋がった。

また、福岡音楽都市協議会と連携して、「FUKUOKA MUSIC SUMMIT」を福岡国際会議場で開催し、800名を超える方に来場いただくとともに多くのメディアに取り上げられ大きな反響を得るなど音楽を通じて福岡市の魅力向上を図ることができた。今後もイベントの定着を目指していく。

### (3) 市内文化施設との連携強化

福岡市の協力により、福岡国際会議場ロビーにリモート観光案内を設置し、遠隔で福岡都市圏、九州エリアの観光スポット、文化施設、食、交通などの案内を実施した。

また、コンベンションエリアを中心とした電子マップを制作し、徒歩圏内での周遊・エリアの活性化に努めたほか、「博多旧市街ライトアップウォーク千年煌夜」のプロモーションを施設内のビジョン等を活用して実施した。

### (4) ユニバーサルデザインへの対応

職員研修の一環として、日本ケアフィット共育機構による「サービス介助基礎研修」を23名が受講し、介護技術やすべての人に安心してご利用いただける施設としての必要なサービスと視点について学んだ。

また、点字ブロックの修繕や館内サインの見直しなどに取り組んだ。今後も職員及び施設関係者全体のユニバーサルマナーの知識と意識の向上を推進し、多様なお客様の視点に立ったコミュニケーション能力の向上を目指していく。

## 7 各施設の利用状況

### (1) 福岡国際会議場

#### ○利用状況（会議室ごと）

区 分	利用室数	利用可能室数	利用率
多目的ホール（4室）	935室	1,340室	69.7%
メインホール（1室）	228室	335室	68.0%
国際会議室（1室）	240室	335室	71.6%
小 計	1,403室	2,010室	69.8%
中・小会議室（18室）	3,512室	6,030室	58.2%
合 計 （24室）	4,915室	8,040室	61.1%

※利用率(室数)は、利用室数(4,915室)÷利用可能室数(8,040室=335日×会議場全24室)

※利用可能日数は、1年(365日)－休館日等(30日：年末年始の6日＋月2日程度の法定点検や工事、修繕等)

#### ○利用状況（催事ごと）

区 分	利用件数	入場者数
国 際 会 議	16件	72,663人
国内学術会議	27件	37,229人
展 示 会	64件	28,018人
コンサート・興行	37件	42,525人
国内一般会議等	634件	119,090人
合 計	778件	299,525人

## ○主な催事 ※＜ ＞は併用施設

名 称	開催期間	入場者数
第 76 回 NPO 法人日本口腔科学会学術集会	4月21日～23日	1,200 人
第 70 回日本質量分析総合討論会	6月22日～24日	510 人
第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 ＜A 館・B 館＞	8月5日～7日	9,000 人
第 26 回日本看護管理学会学術集会＜B 館＞	8月19日～20日	4,808 人
第 11 回日本認知症予防学会学術集会	9月23日～25日	600 人
第 84 回日本血液学会学術集会＜B 館＞	10月14日～16日	3,500 人
第 81 回全国産業安全衛生大会＜A 館・B 館＞	10月20日～21日	5,376 人
第 30 回日本消化器関連学会週間 ＜A 館・国際センター＞	10月27日～29日	24,220 人
Eco Balance 2022	10月30日～11月3日	900 人
全国語学教育学会 第 48 回年次国際大会 教材展示会	11月12日～14日	850 人
第 84 回日本臨床外科学会総会＜B 館＞	11月24日～26日	4,963 人
第 63 回日本肺癌学会学術集会＜B 館＞	12月1日～3日	2,510 人
第 29 回ディスプレイ国際ワークショップ	12月14日～16日	860 人
日本口腔インプラント学会 第 40 回九州支部 学術大会	1月21日～22日	730 人
第 87 回日本循環器学会学術集会＜A 館・B 館＞	3月10日～12日	15,000 人
第 20 回日本臨床腫瘍学会学術集会＜A 館・B 館＞	3月16日～18日	5,800 人



## (2) マリンメッセ福岡A館

### ○利用状況

区 分	利用件数	利用日数	入場者数	利用率
展 示 会	17 件	61 日	129,646 人	66.1%
コンサート・興行	40 件	138 日	744,656 人	
会 議 ・ 集 会	8 件	26 日	70,569 人	
アマチュアスポーツ	0 件	0 日	0 人	
合 計	65 件	225 日	944,871 人	

※利用率は、利用日数（225 日）／利用可能日数（340 日）

### ○主な催事 ※＜ ＞は併用施設

名 称	開催期間	入場者数
第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 ＜会議場・B館＞	8月5日～7日	9,000人
第 45 回九州デンタルショー2022	9月3日～4日	8,309人
つなぐ九州グランドフェア2022＜B館＞	9月9日～10日	4,906人
モノづくりフェア2022＜B館＞	10月5日～7日	12,542人
第81回全国産業安全衛生大会（緑十字展） ＜会議場・B館＞	10月19日～21日	18,509人
第30回日本消化器関連学会週間 ＜会議場・国際センター＞	10月27日～29日	24,220人
FOOD STYLE 2022 in Fukuoka＜B館＞	11月9日～10日	9,564人
第32回西日本食品産業創造展' 22	11月16日～18日	19,010人
ビューティーワールドジャパン福岡	2月6日～8日	9,243人
第87回日本循環器学会学術集会＜会議場・B館＞	3月10日～12日	15,000人
第20回日本臨床腫瘍学会学術集会＜会議場・B館＞	3月16日～18日	5,800人
全国陶磁器フェアin福岡2023	3月23日～27日	19,433人

### (3) マリンメッセ福岡B館

#### ○利用状況

区 分	利用件数	利用日数	入場者数	利用率
展 示 会	13 件	46 日	40,129 人	32.8%
コンサート・興行	9 件	20 日	67,790 人	
会 議 ・ 集 会	17 件	39 日	51,051 人	
アマチュアスポーツ	0 件	5 日	0 人	
合 計	39 件	110 日	158,970 人	

※利用率は、利用日数（110 日）／利用可能日数（335 日）

#### ○主な催事

名 称	開催期間	入場者数
第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 ＜会議場・A館＞	8月5日	400人
第 26 回日本看護管理学会学術集会＜会議場＞	8月19日～20日	4,808人
つなぐ九州グランドフェア2022＜A館＞	9月9日～10日	3,066人
九州ホーム&ビルディングショー2022	9月28日～29日	3,055人
オートアフターマーケット九州	10月1日～2日	1,041人
モノづくりフェア2022＜A館＞	10月5日～7日	7,838人
第81回全国産業安全衛生大会（総会会場） ＜会議場・A館＞	10月19日	2,500人
第5回CareTEX福岡`22	11月1日～2日	3,000人
FOOD STYLE 2022 in Fukuoka＜A館＞	11月9日～10日	5,977人
九州アグロ・イノベーション2022	11月15日～16日	3,289人
第84回日本臨床外科学会総会＜会議場＞	11月24日～26日	4,963人
第87回日本循環器学会学術集会＜会議場・A館＞	3月10日～12日	15,000人
第20回日本臨床腫瘍学会学術集会＜会議場・A館＞	3月16日～18日	5,800人

#### (4) 福岡国際センター

##### ○利用状況

区 分	利用件数	利用日数	入場者数	利用率
展 示 会	34 件	109 日	123,291 人	62.3%
コンサート・興行	13 件	30 日	52,138 人	
会 議・集 会	13 件	22 日	63,777 人	
アマチュアスポーツ	5 件	12 日	9,797 人	
大 相 撲	1 件	36 日	76,333 人	
合 計	66 件	209 日	325,336 人	

※利用率は、利用日数（209 日）／利用可能日数（335 日）

##### ○主な催事

名 称	開催期間	入場者数
2022年全日本選抜柔道体重別選手権大会	4月2日～3日	2,740人
第36回福岡県マーチングコンテスト 第36回福岡県小学生バンドフェスティバル	6月12日	2,167人
2022印刷情報産業展 2022九州サイン&デザインディスプレイショウ	6月24日～25日	6,067人
九州放送機器展2022	7月21日～22日	2,103人
将棋日本シリーズ JTプロ公式戦/テーブルマーク こども大会福岡大会	8月7日	474人
青少年育成チャリティ第15回ホップ・ノット・ナット 福岡県空手道 選手権大会	8月21日	2,090人
福岡マーチングバンド&バトンフェスティバル2022	9月4日	2,100人
Food EXPO Kyushu 2022	10月4日～5日	3,800人
第30回日本消化器関連学会週間<会議場・A館>	10月27日～29日	24,220人
大相撲十一月場所	11月13日～27日	76,333人
第39回読売書法展 九州展・第44回読売学生書展	12月9日～11日	2,013人
九州旅行博覧会～トラベラーズフェス2023～	2月25日～26日	11,389人
わんにゃんドーム2023	3月4日～5日	12,313人

## 8 利用状況及び事業収入の推移

### (1) 利用状況の推移

#### (ア) 福岡国際会議場

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
利用件数	858 件	796 件	412 件	620 件	778 件
入場者数 (前年度比)	358,315 人 (84.6%)	356,094 人 (99.3%)	70,657 人 (19.8%)	140,612 人 (199%)	299,525 人 (213.0%)
利用率	68.7%	64.8%	30.5%	39.0%	61.1%
国際会議室・メインホール・ 多目的ホール	79.8%	77.7%	31.8%	43.2%	69.8%
中・小会議室	64.9%	60.4%	30.0%	37.6%	58.2%

※室数で算出（国際会議室 1 室、メインホール 1 室、多目的ホール 4 室、中・小会議室 18 室）

#### (イ) マリンメッセ福岡 A 館

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
利用件数	95 件	87 件	20 件	40 件	65 件
入場者数 (前年度比)	1,369,977 人 (103.8%)	1,174,928 人 (85.7%)	72,979 人 (6.2%)	417,022 人 (571.4%)	944,871 人 (226.5%)
利用日数	303 日	280 日	44 日	140 日	225 日
利用可能日数	335 日	336 日	298 日(※1)	265 日(※2)	340 日(※3)
利用率	90.4%	83.3%	14.7%	52.8%	66.1%

(※1) 令和 2 年度の利用可能日数は、保守点検日及びコロナ感染拡大による緊急事態宣言発令に伴う臨時休館日（令和 2 年 4 月 4 日～5 月 17 日）を除く

(※2) 令和 3 年度の利用可能日数は、保守点検日及び大規模改修期間（令和 4 年 1 月 11 日～3 月 31 日）を除く

(※3) 令和 4 年度の利用可能日数は、年末年始の休館日利用（令和 4 年 12 月 29 日～31 日、令和 5 年 1 月 2・3 日）を加算

#### (ウ) マリンメッセ福岡 B 館

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
利用件数				16 件	39 件
入場者数 (前年度比)				124,800 人 (-%)	158,970 人 (127.3%)
利用日数				130 日	110 日
利用可能日数				335 日	335 日
利用率				38.8%	32.8%

## (エ) 福岡国際センター

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
利用件数	107 件	91 件	28 件	43 件	66 件
入場者数 (前年度比)	525,776 人 (96.1%)	478,867 人 (91.0%)	48,417 人 (10.1%)	139,081 人 (287.2%)	325,336 人 (233.9%)
利用日数	314 日	271 日	60 日	136 日	209 日
利用可能日数	335 日	336 日	295 日(※)	335 日	335 日
利用率	93.7%	80.7%	20.3%	40.5%	62.3%

(※)令和 2 年度の利用可能日数は、保守点検日及びコロナ感染拡大による緊急事態宣言発令に伴う臨時休館日(令和 2 年 4 月 4 日～5 月 17 日)を除く

## (オ) 4 施設合計 (2020 年度までは 3 施設合計)

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
利用件数	1,060 件	974 件	460 件	719 件	948 件
入場者数 (前年度比)	2,254,068 人 (98.4%)	2,009,889 人 (89.1%)	192,053 人 (9.5%)	821,515 人 (427.7%)	1,728,702 人 (210.4%)

**(2) 事業収入の推移**

## (ア) 福岡国際会議場

(単位：千円)

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
コンベンション事業	536,874	486,187	184,889	296,965	474,553
レストラン等事業	28,819	27,200	5,466	9,071	14,827
駐車場事業	52,126	10,179	719	2,153	4,976
計	617,819	523,566	191,074	308,189	494,356
対前年度比	108.6%	84.7%	36.5%	161.3%	160.4%

## (イ) マリンメッセ福岡 A 館

(単位：千円)

区 分	平成 30 年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和 2 年度 (2020)	令和 3 年度 (2021)	令和 4 年度 (2022)
コンベンション事業	1,120,648	1,018,808	138,378	890,439	877,473
レストラン等事業	28,724	28,384	3,240	10,750	26,334
駐車場事業	84,055	72,798	22,527	77,338	136,808
計	1,233,427	1,119,990	164,145	978,527	1,040,615
対前年度比	113.3%	90.8%	14.7%	596.1%	106.3%

## (ウ) マリンメッセ福岡B館

(単位：千円)

区 分	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
コンベンション事業				362,126	214,323
レストラン等事業				1,251	5,339
駐車場事業				5,574	3,490
計				368,951	223,152
対前年度比				—	60.4%

## (エ) 福岡国際センター

(単位：千円)

区 分	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
コンベンション事業	394,612	326,915	67,211	190,990	267,056
レストラン等事業	10,773	10,560	1,503	3,629	8,742
駐車場事業	2,705	2,113	105	623	1,425
計	408,090	339,588	68,819	195,242	277,223
対前年度比	110.2%	83.2%	20.3%	283.7%	141.9%

## (オ) 4施設合計

(単位：千円)

区 分	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
コンベンション事業	2,052,134	1,831,910	390,478	1,740,520	1,833,407
レストラン等事業	68,316	66,144	10,209	24,701	55,242
駐車場事業	138,886	85,090	23,351	85,688	146,701
計	2,259,336	1,983,144	424,038	1,850,909	2,035,350
対前年度比	111.4%	87.8%	21.4%	436.5%	109.9%

※本表中単位を千円としている為、合計と合わないものがあります。

(参考) コンベンション事業収入決算の年度別推移

